

口永良部島の火山活動解説資料（平成 24 年 3 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

平成 24 年 1 月 20 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 3 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2）

遠望観測では、新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上概ね 100m 以下の高さで経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 1、図 4）

火山性地震の月回数は 105 回（2 月：41 回）と少ない状態で経過しました。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

火山性微動の継続時間の月合計は 2 分（2 月：なし）でした。

・地殻変動の状況（図 5～7）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011 年 9 月頃から鈍化しています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 4 月分）は平成 24 年 5 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

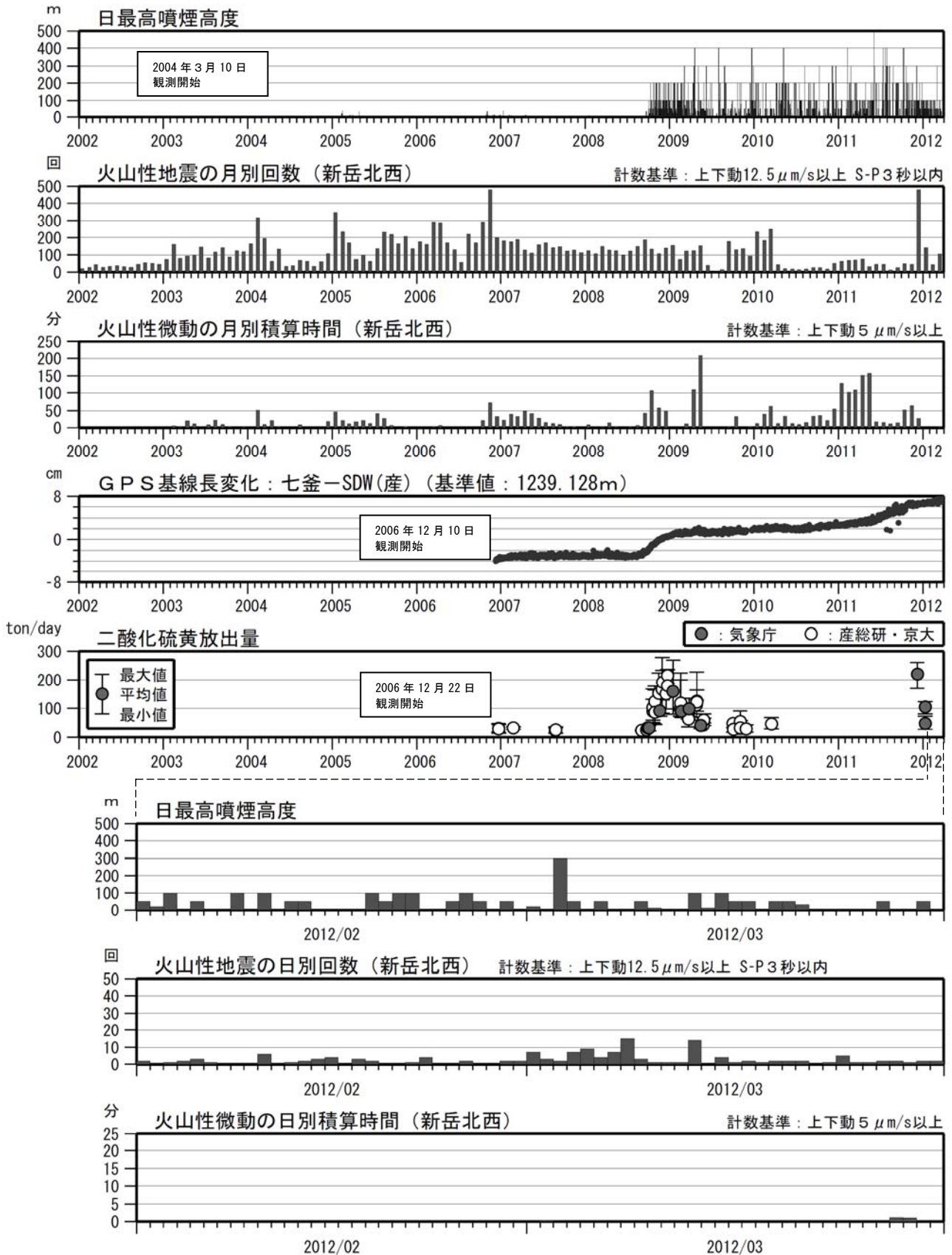


図1 口永良部島 火山活動経過図（2002年1月～2012年3月）

< 3月の状況 >

- ・ 白色の噴煙が火口縁上概ね 100m以下の高さで経過しました。
- ・ 火山性地震の月回数は 105 回（2月：41 回）と少ない状態で経過しました。
- ・ 火山性微動の継続時間の月合計は 2分（2月：なし）でした。



図2 口永良部島 噴煙の状況（3月3日、本村西遠望カメラによる）

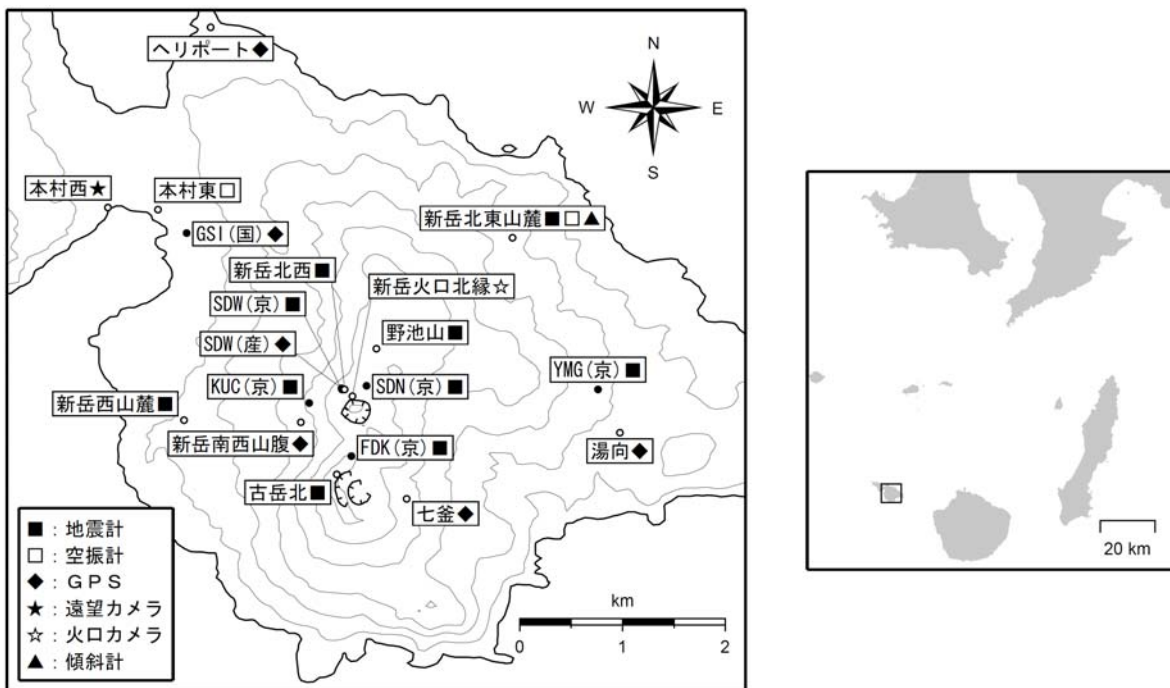


図3 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所

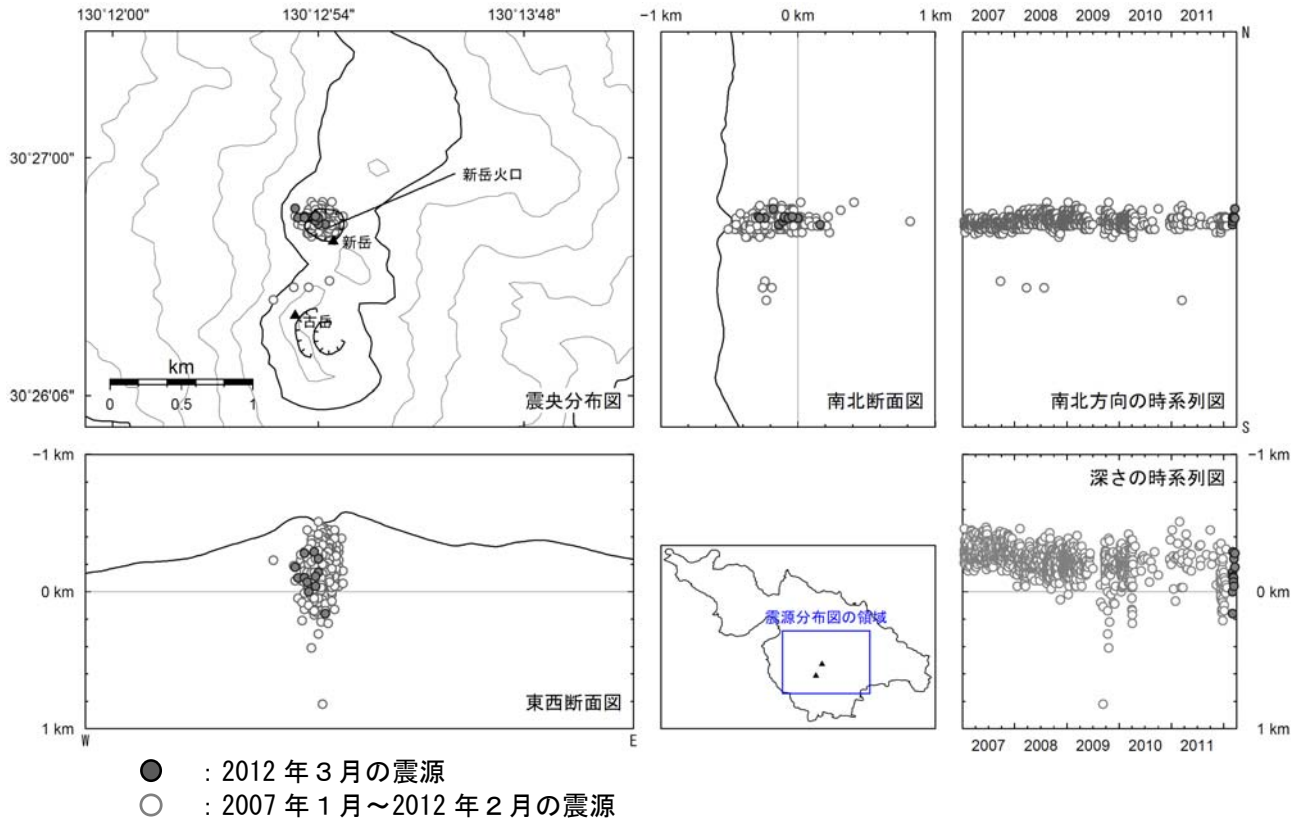


図 4※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2012 年 3 月）

< 3 月の状況 >

火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

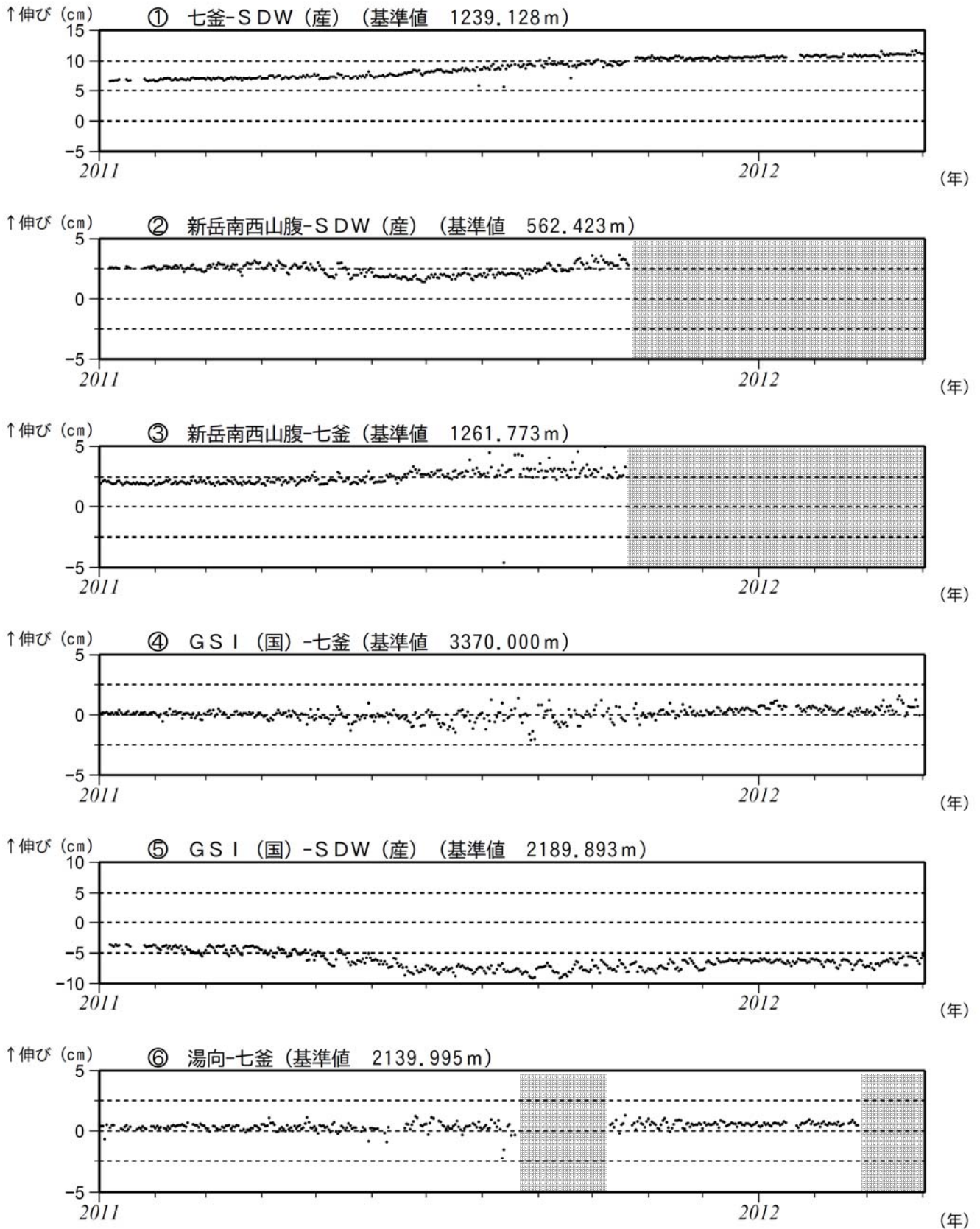


図5※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2007 年 1 月～2012 年 3 月)

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜-SDW (産) の基線①で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011 年 9 月頃から鈍化しています。

この基線は図 7 の①～⑥に対応しています。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

灰色部分は観測点障害のため欠測。

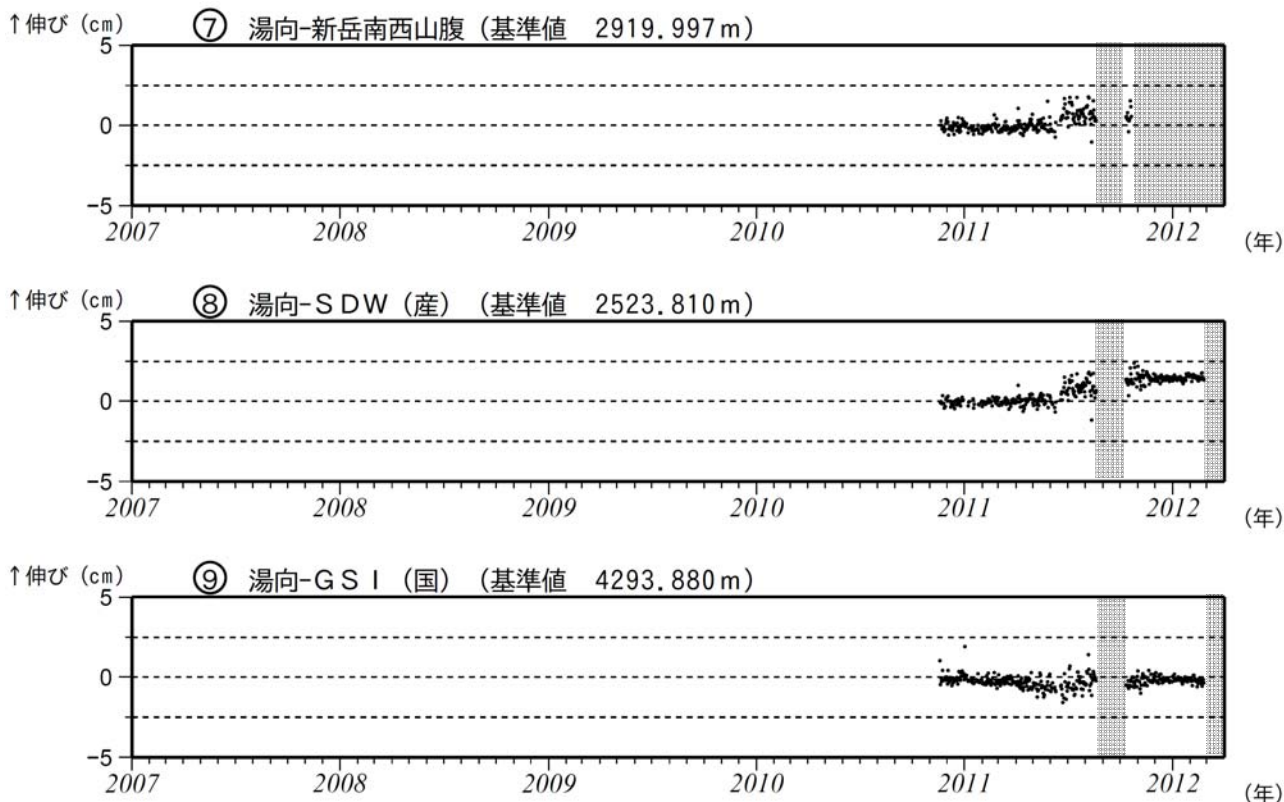


図 6※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2007 年 1 月～2012 年 3 月)

この基線は図 7 の⑦～⑨に対応しています。
 2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

灰色部分は観測点障害のため欠測。

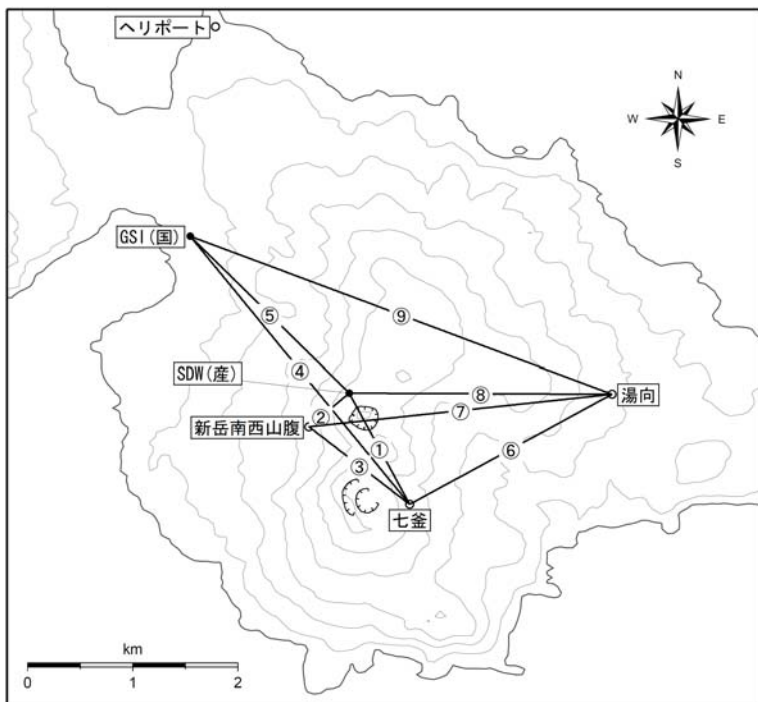


図 7 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(産) : 産業技術総合研究所
 ヘリポート観測点は現在調整中です。